

2025年9月期 通期決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2025年11月17日

本日のトピックス

- 1 売上、売上総利益は過去最高を更新
営業利益は人員増やIT関連投資もあり前年比減
- 2 ライフサイエンスセグメントが減益(バイオ関連機器の代理店契約の逸失)となるもサステナビリティが業績を牽引
- 3 シンガポール法人 EMAS SUPPLIES & SERVICES PTE LTD(EMAS社)の全株式を取得、バリューチェーン拡大
- 4 2026年9月期は先行投資で踊り場となるも、2027年9月期以降に新規案件が順次収益貢献予定にてSV2028※の目標は達成見込み

※SV2028:SANYO VISION 2028。23年11月に公表した5か年長期経営計画
(以下、同)

目次

- 01 2025年9月期 実績
- 02 2026年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗

01

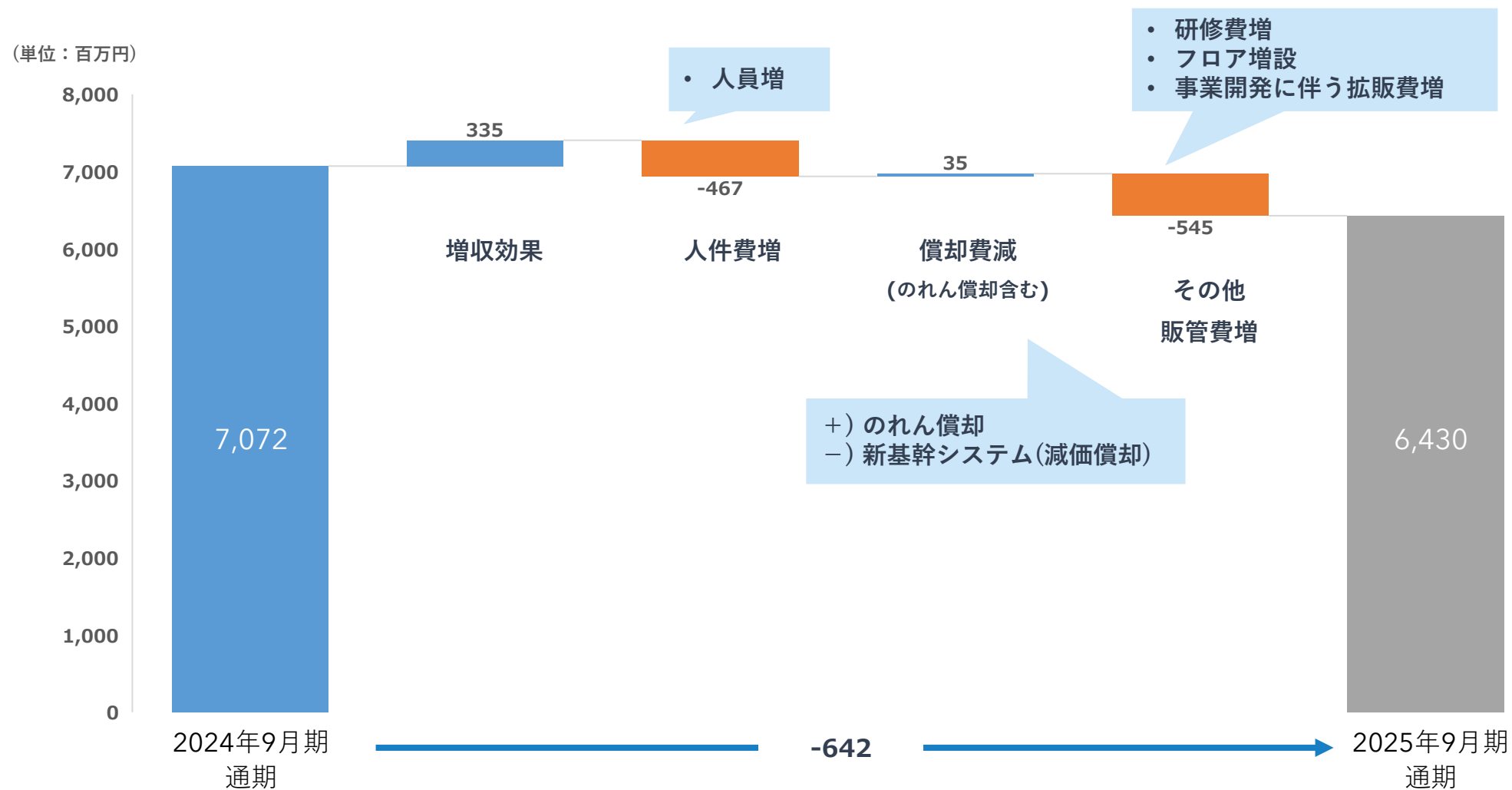
- 01 2025年9月期 実績
- 02 2026年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗

2025年9月期 連結実績

- 売上、売上総利益は過去最高を更新。売上総利益率も高水準を維持
- 営業利益は人員増やIT関連投資もあり前年比減
- 経常利益と当期純利益はのれんの一括償却等により前期比減

(単位：百万円)	2024年9月期	2025年9月期		
	通期	通期		
	実績	期初予想	実績	前期比
売上高	129,263	132,000	132,703	+2.7%
売上総利益 (売上総利益率)	22,229 (17.2%)		22,564 (17.0%)	+1.5%
販売費及び 一般管理費	15,156		16,133	+6.4%
営業利益 (営業利益率)	7,072 (5.5%)	7,100 (5.4%)	6,430 (4.8%)	▲9.1%
経常利益 (経常利益率)	7,905 (6.1%)	7,500 (5.7%)	6,879 (5.2%)	▲13.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,207	4,900	4,615	▲11.4%
EPS(円)	180.88	170.11	160.23	-

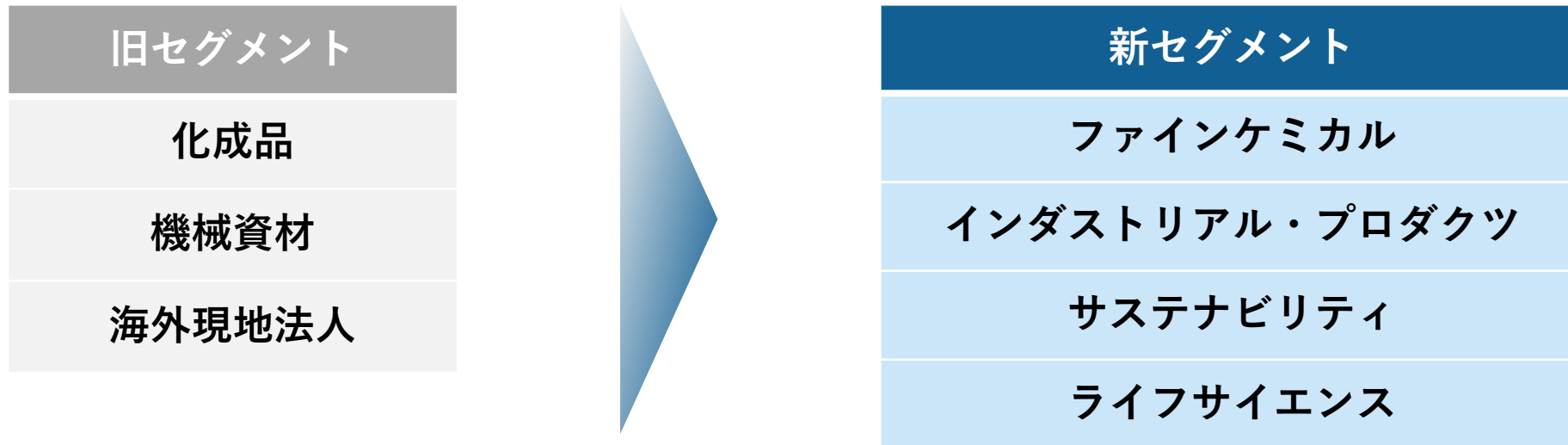
2025年9月期 営業利益の増減要因



お知らせ【再掲】

- 2025年9月期第1四半期より報告セグメントを変更 (2024/9/10に開示済み)
- 目的：市場へのディスクロージャー、経営資源の最適配分、業績モニタリング

(報告セグメント)



(地域別売上)

- 日本、北米、中国、**ASEAN**、その他(インド・欧州等)に変更

※変更前は日本、アメリカ、中国、その他

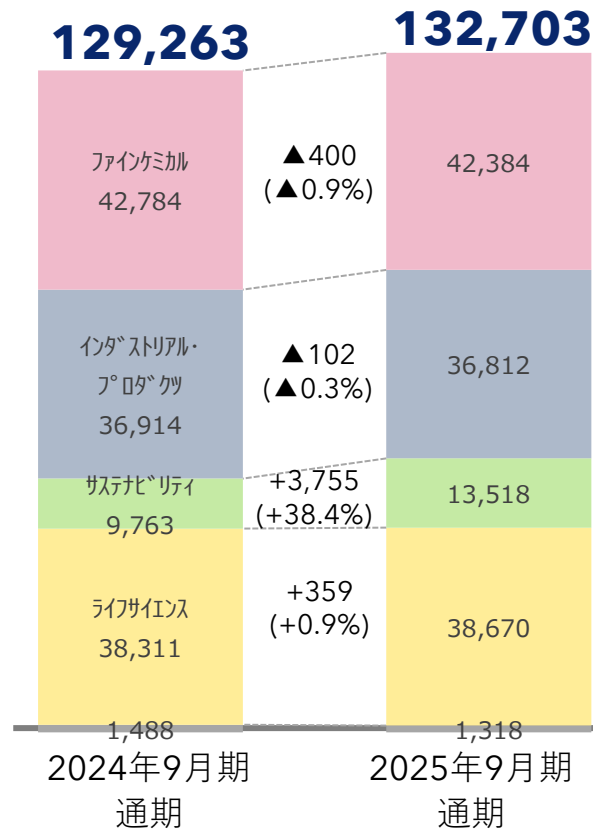
セグメント別 決算サマリー

- サステナビリティが業績を牽引。それ以外の3セグメントの売上は略横這いなるも減益

売上高 前年同期比

+34.4 億円 (+2.7 %)

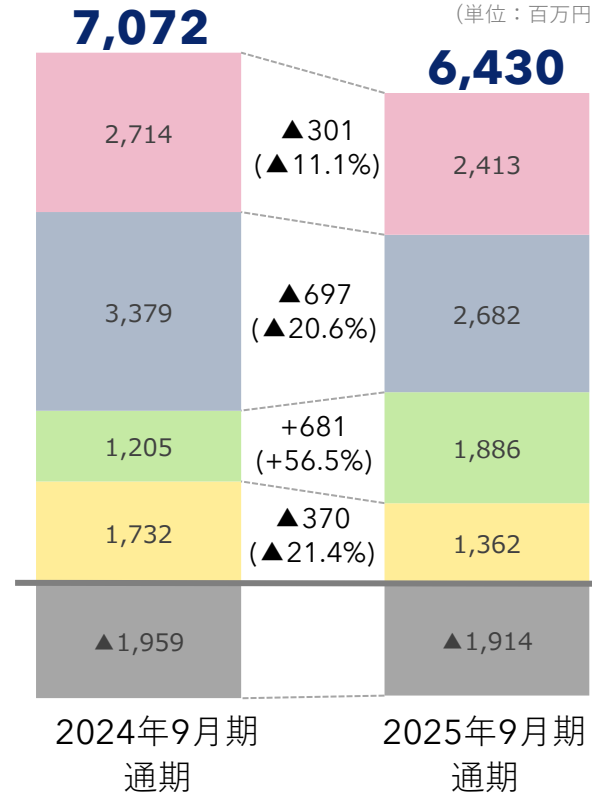
(単位：百万円)



営業利益 前年同期比

▲ 6.4億円 (▲9.1 %)

(単位：百万円)



ファインケミカル 減収・減益

インダストリアル・
プロダクツ 減収・減益

サステナビリティ 増収・増益

ライフサイエンス 増収・減益

セグメント別構成比率

■ サステナビリティが伸長し、売上高10%、営業利益20%超へ

ファインケミカル

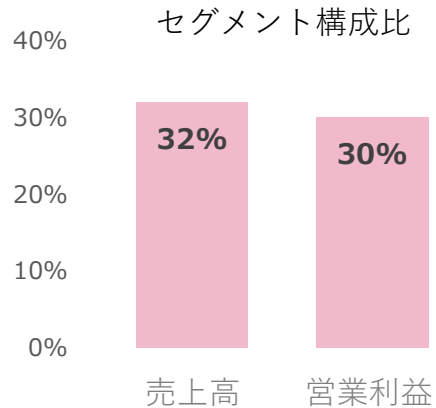
分野：合成ゴム、塗料、インキ、コーティング



ゴム関連



化学品関連



インダストリアル・プロダクツ

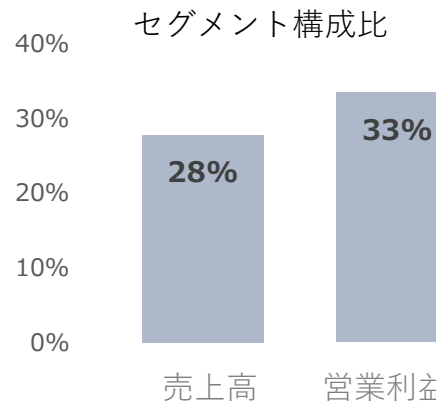
分野：あらゆる移動体



自動車内装部材



スキャンニングによる
ベンチマーキングサービス



サステナビリティ

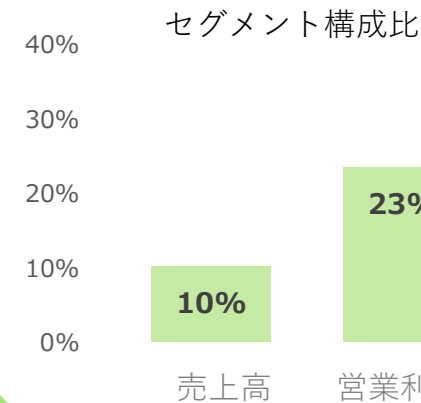
分野：再生可能エネルギー（バイオマス、地熱、海洋）、畜産飼料



木質バイオマス関連



洋上風力
海洋調査関連



ライフサイエンス

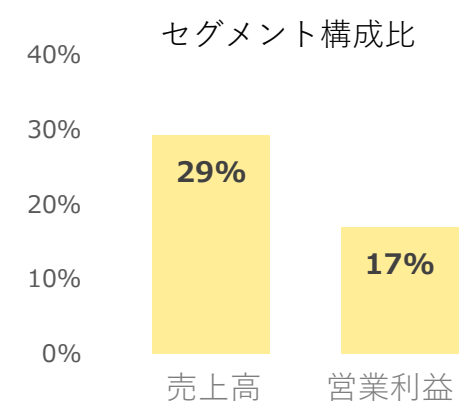
分野：食品添加物、化粧品、在宅医療、科学機器、バイオテクノロジー



電子材料



評価装置



注:セグメント別売上高・営業利益比率は、連結調整前の数値をもとに算出。「その他」を記載していない為、合計は100%となりません。

セグメント別概況：ファインケミカル

(単位：百万円)	2024年9月期 通期	2025年9月期 通期	前期比
売上高	42,784	42,384	▲0.9%
営業利益 (営業利益率)	2,714 (6.3%)	2,413 (5.7%)	▲11.1%

増減要因	
売上高	ゴム : +)国内向け原材料需要が好調 一部海外グループ会社の業績伸長 化学品 : +)一部海外グループ会社の業績伸長 -)市況影響を受け主力商材需要が弱含み
営業利益	ゴム : -)一部輸出の不調 化学品 : -)売上減少と仕入れ価格上昇

【主な取扱い製品】



合成ゴム



熱可塑性エラストマー・樹脂



ゴム補強・充填材

<最終用途>

- 自動車用シール材
- 高圧ホース
- タイヤ
- 家電製品



光重合開始剤/紫外線吸収剤



顔料



スペシャリティモノマー



ワックス



シランカップ
リング剤

<最終用途>

- インキ・印刷物
- 外壁用塗料
- 接着剤
- プラスチック製品

セグメント別概況：インダストリアル・プロダクツ

(単位：百万円)	2024年9月期 通期	2025年9月期 通期	前期比
売上高	36,914	36,812	▲0.3%
営業利益 (営業利益率)	3,379 (9.2%)	2,682 (7.3%)	▲20.6%

増減要因	
売上高	国内：+)販売価格見直しにより堅調 海外：+)米国、メキシコの自動車関連好調 -)中国の景気減速と競争激化による日系自動車メーカーの減産
営業利益	-) 為替変動影響により国内の利益減少

【主な取扱い製品】



セグメント別概況：サステナビリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 通期	2025年9月期 通期	前期比
売上高	9,763	13,518	+38.4%
営業利益 (営業利益率)	1,205 (12.3%)	1,886 (14.0%)	+56.5%

増減要因	
売上高	+) 飼料加工機器の関連消耗品販売好調 木質バイオマス関連事業で大型案件の計上 +) 海洋調査資機材中心に海洋開発が牽引 地熱関連機材も好調 -) 石油・ガス機材は低調
営業利益	+) 上記売上増加に伴う利益増

【主な取扱い製品】

< 飼料用加工機器・木質バイオマス関連 >



ペレットミル



(各種ペレット)



木質チップ用低温
水型ベルトドライヤー



各種ハンマーミル



ガス化ユニット



熱電併給ユニット

< 最終用途 >

- ・ 飼料・肥料
- ・ 食品・工業製品等
- ・ 再生可能エネルギー

< 洋上風力・海洋調査関連 >



トップドライブシステム



ROV 遠隔操作型無人潜水機



TPカバー



ケーブルプロテクションシステム

< 最終用途 >

- ・ 石油・ガス
- ・ 地熱開発
- ・ 洋上風力発電
- ・ 海洋調査

セグメント別概況：ライフサイエンス

※LS: ライフサイエンス

(単位：百万円)	2024年9月期 通期	2025年9月期 通期	前期比
売上高	38,311	38,670	+0.9%
営業利益 (営業利益率)	1,732 (4.5%)	1,362 (3.5%)	▲21.4%

増減要因	
売上高	+) LS※:円安を背景に電材の輸出好調継続 科学機器:需要好転により堅調 ワイピーテック:機能性飼料原料の販売数量増
営業利益	-) スクラム:バイオ関連機器の契約終了影響 -) 上記売上減少に伴う利益減(バイオ関連機器影響大)

【主な取扱い製品】

<ライフサイエンス関連>



電子材料



各種フィルム



化粧品(原料/容器)



FoodTech



香料



高機能性樹脂

<最終用途>

- ・ 電子機器／バッテリー
- ・ 芳香剤
- ・ ペットフード
- ・ オムツ

<科学機器関連>



濡れ性評価装置



粒子評価装置



耐熱性試験機

<最終用途>

- ・ 研究開発 (R&D)
- ・ 品質管理
- ・ 生産管理
- ・ 検査

<バイオテクノロジー関連>



3Dバイオプリンター



遺伝子解析次世代シーケンサー (NGS)



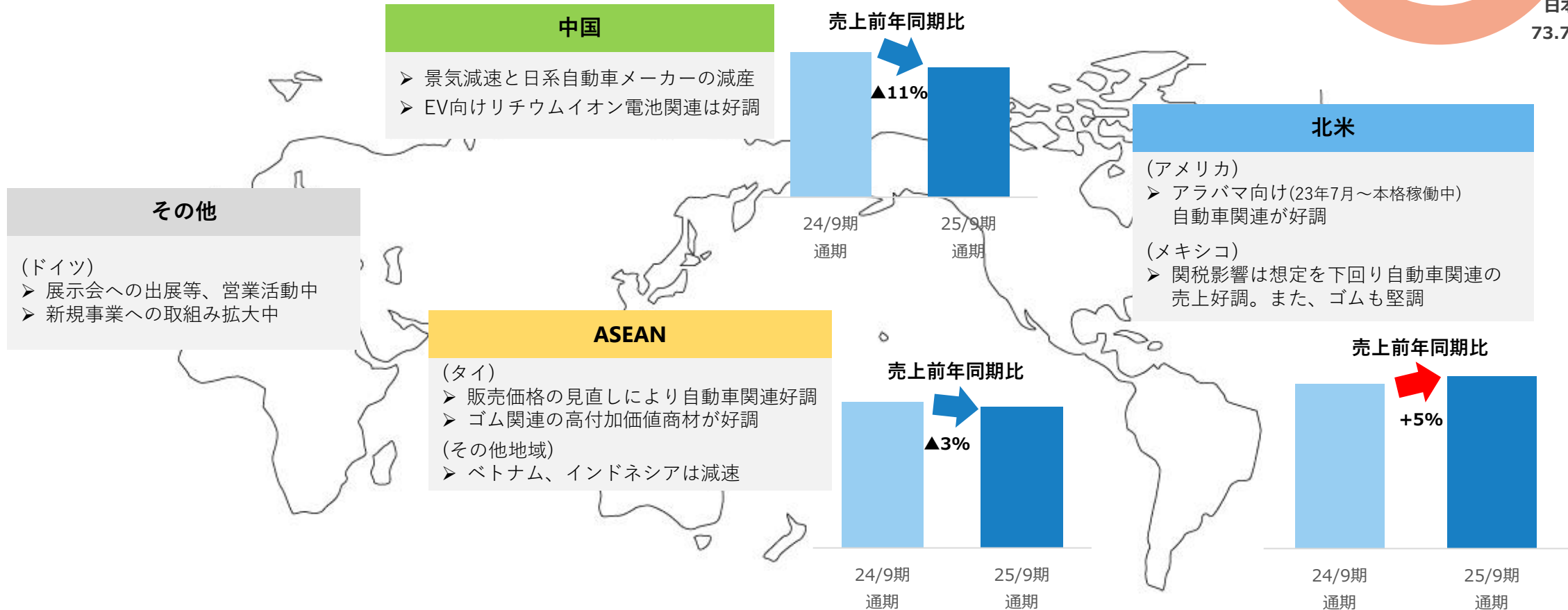
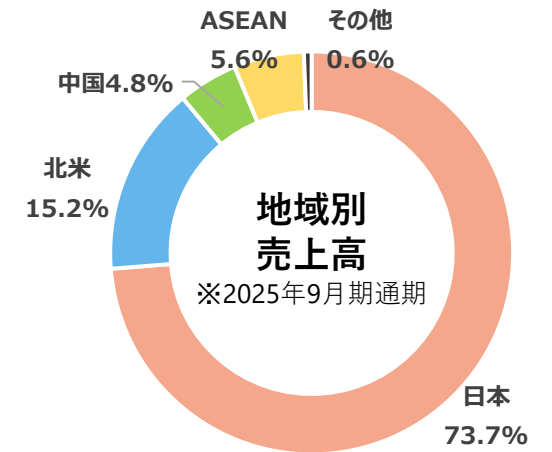
遺伝子発現解析サービス、創薬支援サービス

<最終用途>

- ・ 遺伝子研究
- ・ 細胞研究
- ・ タンパク質研究
- ・ 病理研究
- ・ 創薬支援

地域別売上高と状況

- 北米が好調。中国、ASEANは減速。海外全体は売上前年比▲0.6%
- 海外拠点主導で、地場オリジネーション事業開拓中



【トピックス】韓国支店開設について

※2025/9/19 当社HPにて開示
([韓国支店設立に関するお知らせ](#))



ライフサイエンス

■ ライフサイエンス事業の有望な市場である大韓民国に支店を展開し、事業領域を拡大

【所在地】

- 大韓民国、ソウル特別市

【時期】

- 2025年10月より営業活動を開始

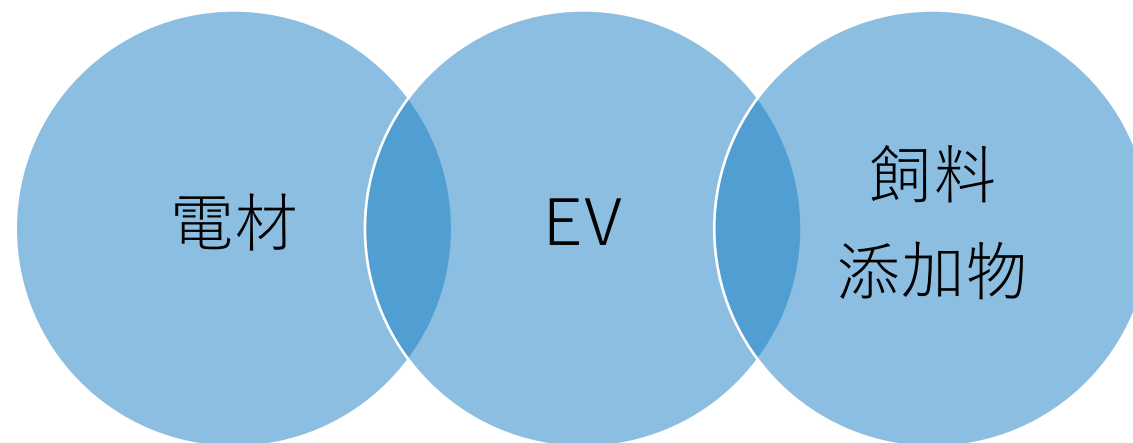
【事業概要】

- ゴム、化学品、機械機器、自動車部品、科学機器
その他各種商品の販売支援

【狙い・今後の事業展開】

- 韓国向け電材・半導体関連ビジネスの強化(顧客への高付加価値サービス)
- EV関連分野への展開強化
- 飼料添加物ビジネス強化(輸出入双方向)

(注力分野)



02

01

2025年9月期 実績

02

2026年9月期 業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

2026年9月期 業績予想

- 成長先行投資や事業収益化のタイミング等により2026年9月期は踊り場となる
(2027年9月期以降に新規案件が順次収益貢献予定)

(単位：百万円)	2025年9月期実績		2026年9月期予想	
	実績	前期比	予想	前期比
売上高	132,703	+2.7%	130,000	▲2.0%
売上総利益 (売上総利益率)	22,564 (17.0%)	+1.5%		
販売費および 一般管理費	16,133	+6.4%		
営業利益 (営業利益率)	6,430 (4.8%)	▲9.1%	6,200 (4.8%)	▲3.6%
経常利益 (経常利益率)	6,879 (5.2%)	▲13.0%	6,500 (5.0%)	▲5.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,615	▲11.4%	4,100	▲11.2%
EPS(円)	160.23	-	142.31	-

2026年9月期 セグメント別業績予想

- ファインケミカル：既存ビジネスの拡大および海外事業の進展により堅調
- サステナビリティ：木質バイオマス関連の大型案件の収益計上で好調を見込む一方、海洋開発関連事業ではプロジェクト成約計上の端境期にあたり、一時的に減速
- ライフサイエンス：スクラムのマイナスを既存ビジネスの成長、のれん償却負担の軽減で補う

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2025年9月期 実績	2026年9月期 予想	前期比	2025年9月期 実績	2026年9月期 予想	前期比
ファインケミカル	42,384	44,000	+3.8%	2,413	2,700	+11.9%
インダストリアル・ プロダクツ	36,812	35,000	▲4.9%	2,682	2,500	▲6.8%
サステナビリティ	13,518	11,500	▲14.9%	1,886	1,100	▲41.7%
ライフサイエンス	38,670	38,000	▲1.7%	1,362	1,600	+17.4%
その他	1,318	1,500	-	▲1,914	▲1,700	-
合計	132,703	130,000	▲2.0%	6,430	6,200	▲3.6%

03

- 01 2025年9月期 実績
- 02 2026年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗

SANYO VISION 2028 財務目標の進捗状況

■ SV2028の2年目が終了。2027年9月期以降に新規案件が順次収益貢献予定にてSV2028目標は達成見込み

	目標 (2028年9月期)	結果 (2024年9月期)	結果 (2025年9月期)	評価
ROE	10～12%	11.4%	9.3%	△
営業利益	90億円	70億円 (上方修正目標達成)	64億円	△
営業利益率	5.1%	5.5%	4.8%	△
営業CF	黒字	54億円(黒字)	71億円(黒字)	○
自己資本比率	50%以上	63.3%	62.9%	○
PBR	1倍超	0.92	0.91	△

組織改編および担当役員設置に関するお知らせ

※2025/11/10 当社HPにて開示

(長期経営計画「SANYO VISION 2028」達成に向けた組織改編および担当役員設置に関するお知らせ)

■ 経営体制の一層の強化を目的とした組織改編および担当役員の設置を行うことを取締役会で決議

【主な改編内容】

1. SV2028の重要目標である①営業利益90億円、②PBR1倍以上、③人的資本の充実3項目達成に向けた推進責任者を設置

目標	責任者	役職
営業利益90億円	平澤 光康	取締役 兼 執行役員 事業部門担当
PBR1倍以上	難波 嘉己	取締役 兼 執行役員 事業部門担当・経営企画部長
人的資本の充実	新谷 正伸	代表取締役社長 兼 社長執行役員

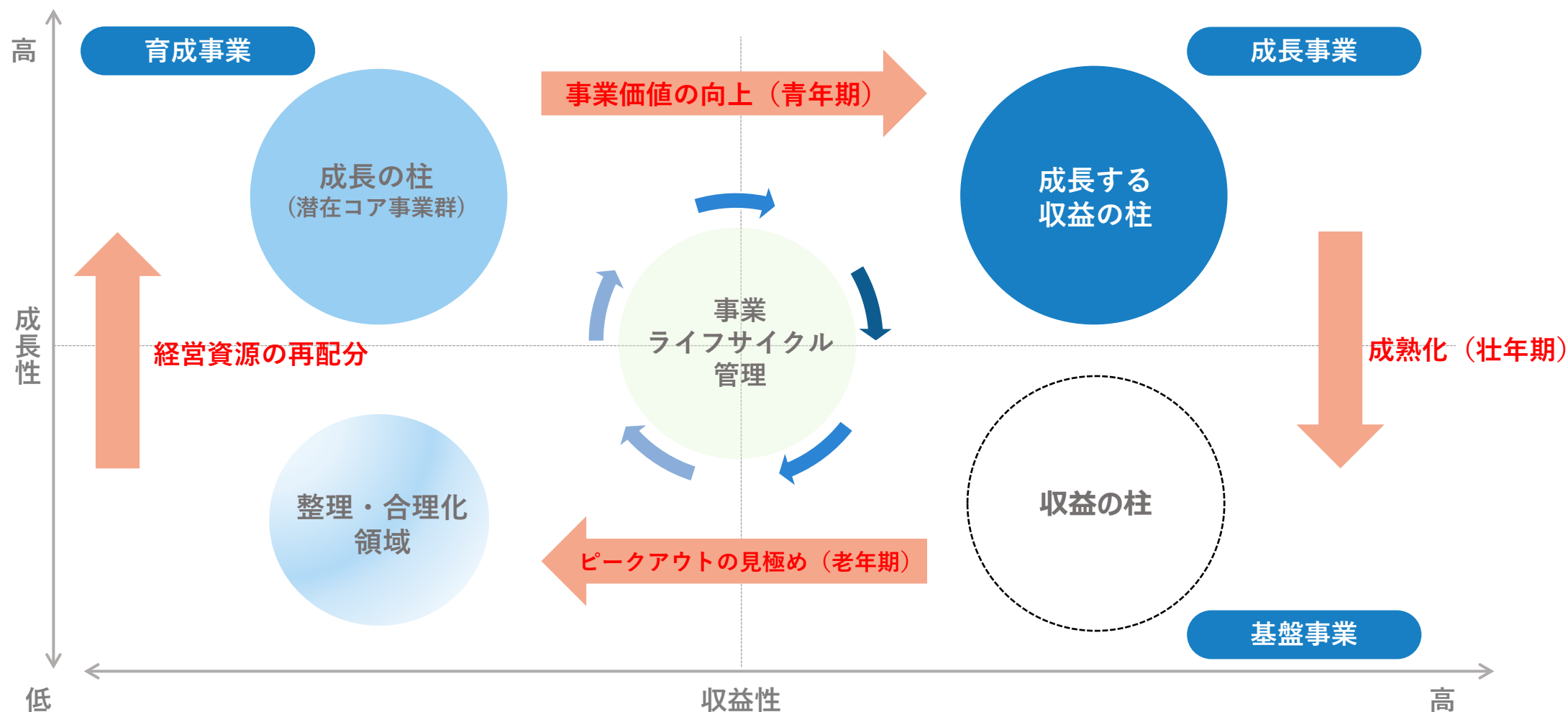
2. SV2028の経営方針に基づき、各事業セグメントの統括役員を新たに設置し、市場での戦略性および専門性を高める

事業セグメント	統括役員	役職
ファインケミカル	小宮 康	上級執行役員 ゴム事業部長
インダストリアル・プロダクツ	難波 嘉己	取締役 兼 執行役員 事業部門担当・経営企画部長
サステナビリティ	平澤 光康	取締役 兼 執行役員 事業部門担当
ライフサイエンス	田口 耕児	上級執行役員 ライフサイエンス事業部長

3. 執行役員会を改編し、名称を「SV2028達成委員会」に改める。委員会の目的を「SV2028達成」に絞り、経営課題を迅速に把握し、戦略的かつ機動的な事業執行と体制強化を進める

事業ポートフォリオの不断の組み換え

- 将来の収益の柱となる事業の発掘・育成を推進
- 経営リソースを戦略的に傾斜配分し、成長を加速



事業セグメントと注力事業

- 成長ポテンシャルの高い成長事業・育成事業における多様な商材・サービスの展開
- 当社の強みである専門性・技術力および堅固な財務基盤を活かした戦略的投資による事業強化

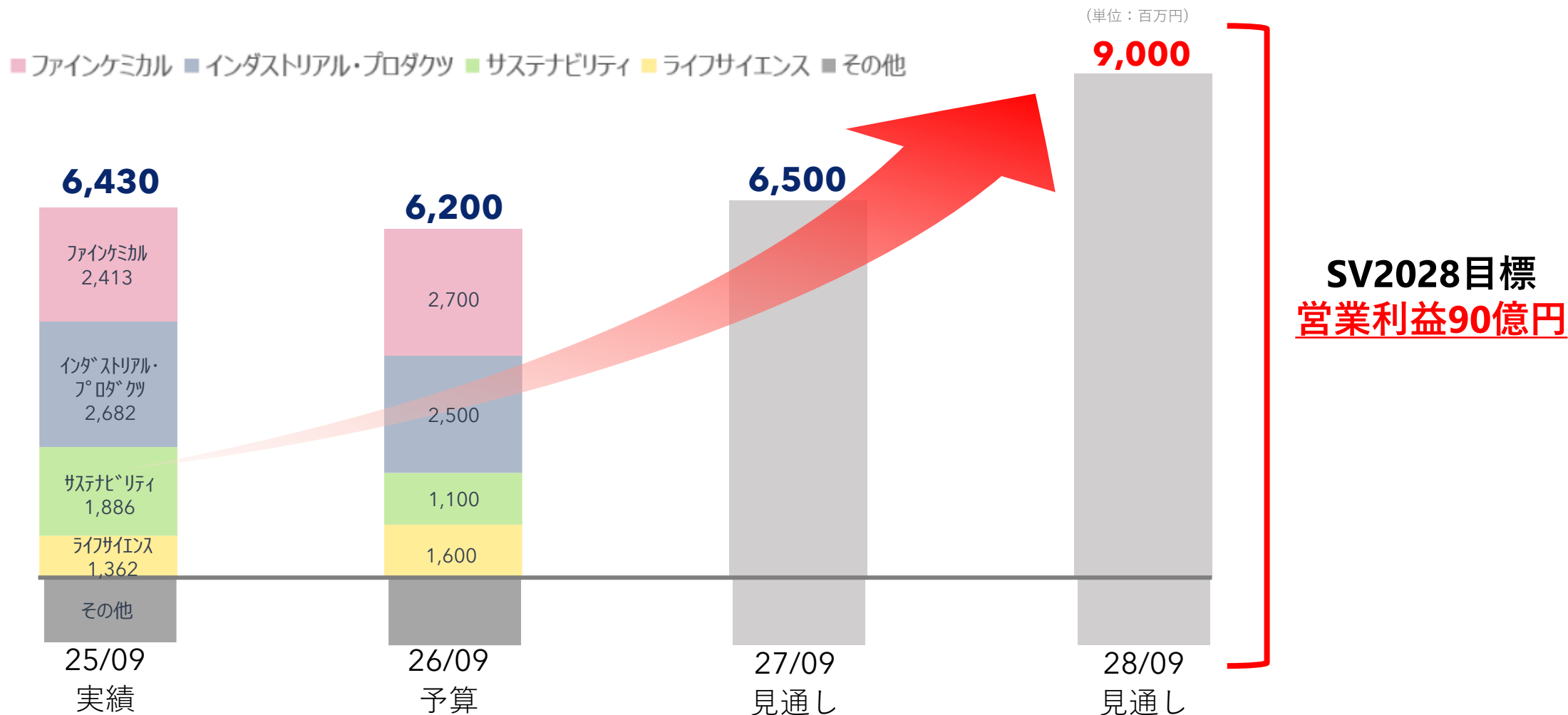
赤字：最注力事業

ポートフォリオ	事業セグメント			
	ファインケミカル	インダストリアル・プロダクツ	サステナビリティ	ライフサイエンス
育成事業	- 天然由来素材 - 次世代用途の機能性素材 - 電材ケミカル	- EV保守メンテナンス機材 - 環境対応表皮 - 高周波同軸ケーブル	- 洋上風力発電関連機材 - 新素材フィルム - カーボンニュートラル関連	- 化粧品関連 - 農業関連 - タンパク質解析/バイオインフォマティクス
成長事業	- 機能性ゴム素材 - 副資材(ゴム) - 接着剤原料	自動車ベンチマーキング	- 木質バイオマス関連機材 - 海洋資源開発・調査関連	- LiB関連部材含む電材 - 食品添加物 - 新機能性飼料
基盤事業	- 基幹ゴム商材 - インキ原料 - 塗料・コーティング原料	自動車内装材	- ペレットミル - 地熱開発関連機材	- 科学機器 - フィルム - SAP ・染料/香料 - 各種 機能性原料 - バイオ関連装置/試薬
要検討事業	低収益・低成長事業			

戦略的なM&A・事業投資で強化

セグメント別 営業利益 実績および見通し

- 2026年9月期は踊り場となるも、2027年9月期以降に新規案件が順次収益貢献予定
- SV2028の目標である営業利益90億円は達成見込み



【セグメント別成長戦略】ファインケミカル

■ 当社の祖業。専門性の高い商社機能を活かし更なる成長を目指す

当社の強み

- ・ゴム・化学品分野での幅広い商材の取扱い
- ・日本と海外拠点の連携を通じた地域差のない商材・サービス提供
- ・高付加価値商品を取扱う専門性・技術力
- ・財務基盤を活かした安定供給力



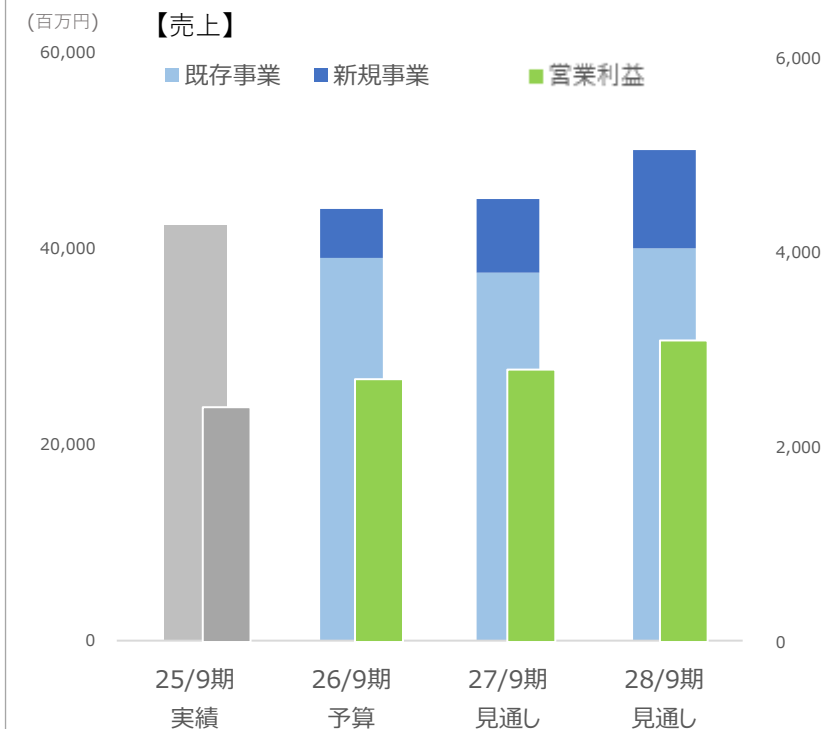
事業環境

- ・国内市場は次世代用途、機能性商材への需要を除き成熟化の一方で、海外市場は拡大継続
- ・海外サプライヤーは日本市場への投資を絞り、商社に高い専門性・技術対応力を求める動きが進展
- ・EV化による新たな市場の創出（バッテリー等）
- ・環境対応品への切替加速

業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し

【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 海外サプライヤーとの関係深化
- 海外展開強化（日系メーカー・海外現地企業）
- 高付加価値／環境対応商材の新規拡売
- M&Aでの海外強化
- DX化による小規模商売の効率化

計画達成の鍵となるファクター

- 海外サプライヤーによる代理店集約 → 商権獲得
- 国内合成ゴムメーカーの再編 → 取扱シェアアップ
- 海外での日系自動車のシェア維持 → 自動車部品メーカーへの販売維持

ビジネス

既存

- (ゴム)ARLANXEO社合成ゴム、ダウ東レ社シリコンゴム
- (化学品)インキ・塗料・コーティング・樹脂・接着剤原料

新規

- (ゴム)ダウホン社フッ素ゴム、機能性素材、天然由来素材
- (化学品)環境対応素材、電材ケミカル

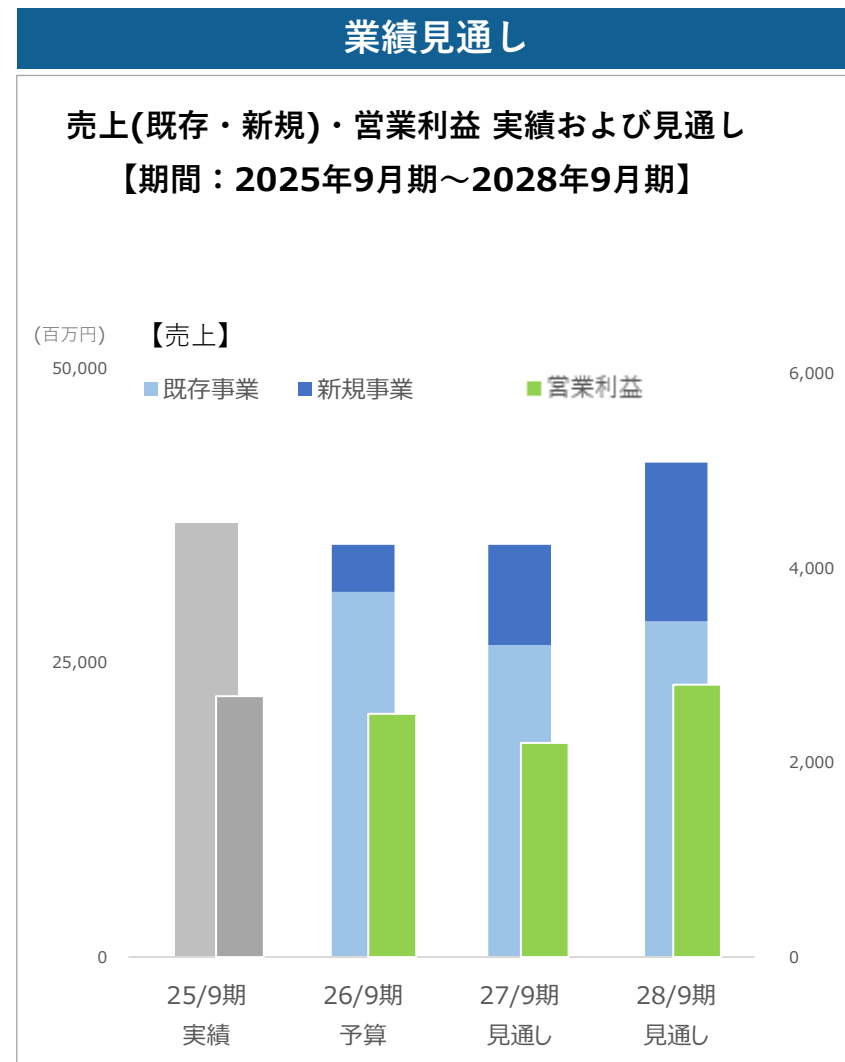
【セグメント別成長戦略】 インダストリアル・プロダクツ

■ 当社の収益の大きな柱の一つ。新規事業を育成し、事業PFの入替を推進

当社の強み
・営業・開発設計・品質保証およびジャストインタイム納入までの一気通貫サービス提供 ・全ての日系自動車メーカーとの取引関係構築 ・自動車内装部材ビジネスで蓄積した知見 ・財務基盤を活かした安定供給力



事業環境
・EV化、自動運転、MaaSなどの技術革新による世界の自動車産業の構造変化 ・既存商売のコモディディ化・競争激化 ・非日系自動車メーカーの伸長 ・半導体／データセンター／量子コンピューターなど情報通信分野の市場拡大



基本戦略	■ 既存ビジネスの堅持 ■ <u>海外自動車メーカーとの取引強化</u> ■ <u>バリューチェーン機能の多角化（新車部品市場からアフターマーケット市場へ）</u> ■ 新規商材の開発、日本市場への導入	
計画達成の鍵となるファクター	■ 米国の通商・関税政策の動向 → 利益への影響 ■ 海外での日系自動車のシェア維持 → 自動車・部品メーカーへの販売維持 ■ 中国プラスワンの供給体制強化 → 調達先の多様化	
ビジネス	既存	■ シートヒーター、ランバーサポート等の自動車内装材
	新規	■ 自動車ベンチマーキング、EVバッテリーテスター、環境対応表皮、 ■ 高周波同軸、光ケーブル（次世代データセンター・半導体分野向け）

【セグメント別成長戦略】サステナビリティ

■ 再生可能エネルギー市場拡大を追い風とした事業成長

当社の強み

- ・ プラント設計/施工からアフターサービスまでの一貫したトータルソリューション提供
- ・ 国内飼料用ペレットミルでの圧倒的シェア
- ・ 地熱開発の機器納入での高シェア
- ・ 洋上風力発電関連機材の幅広いラインナップ

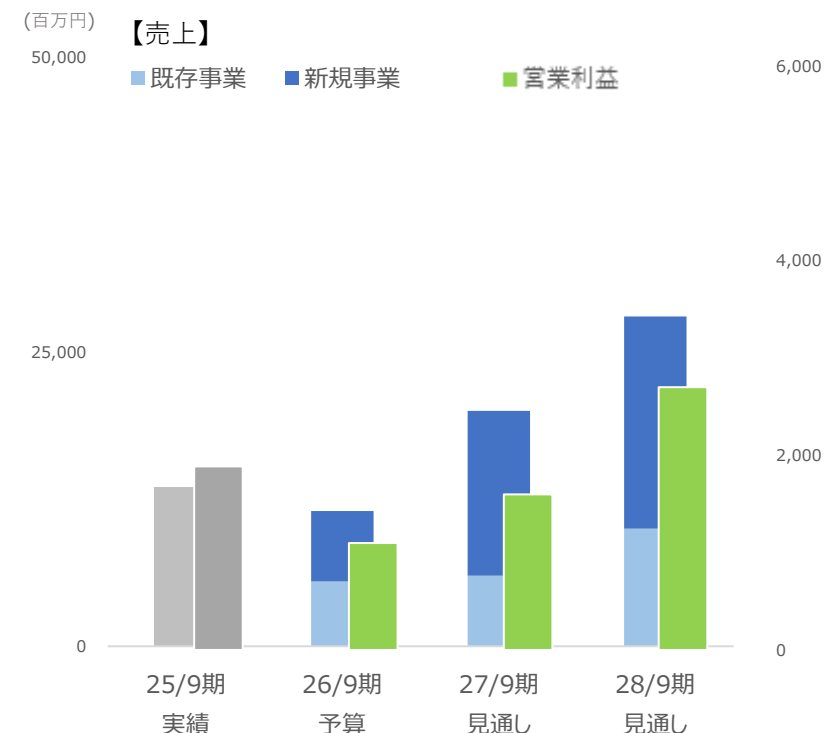


事業環境

- ・ 飼料製造現場での自動化・効率化の加速
- ・ 電源構成の脱炭素化と再エネシフトの進展
- ・ 大手電力による再エネ事業強化の潮流
- ・ 着床型から浮体型への洋上風力シフト

業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 高いシェアを背景とした設備更新需要取り込み
- 機材のアフターサービスによるストック収益強化 (ペレットミル・木質バイオマス)
- ペレットミルの新たな用途開発 (ex.有機肥料事業)
- 洋上風力発電案件での大型プロジェクト獲得 / 商材多様化
- 海洋資源開発事業・洋上風力発電事業でのバリューチェーン拡充 (M&Aも選択肢)

計画達成の鍵となるファクター

- 飼料工場統合・再編に伴う大型投資の加速 → 設備更新需要獲得
- 再生可能エネルギープロジェクトでの事業収益の安定 → 市場拡大

ビジネス

既存

- ペレットミル
- 地熱開発関連機材

新規

- 木質バイオマス関連機材
- 海洋資源開発・調査関連 / 洋上風力発電関連機材
- 新素材フィルム

【セグメント別成長戦略】ライフサイエンス

■ 成長市場向けのQOL・環境対応品の発掘と育成

当社の強み

- ・グローバルな事業基盤で各拠点と連携したビジネスを展開
- ・先端技術を支える素材と機器の取扱い
- ・高付加価値商品を取扱う専門性・技術力
- ・財務基盤を活かした安定供給力
- ・免疫のバイオインフォマティクス、情報・構造解析

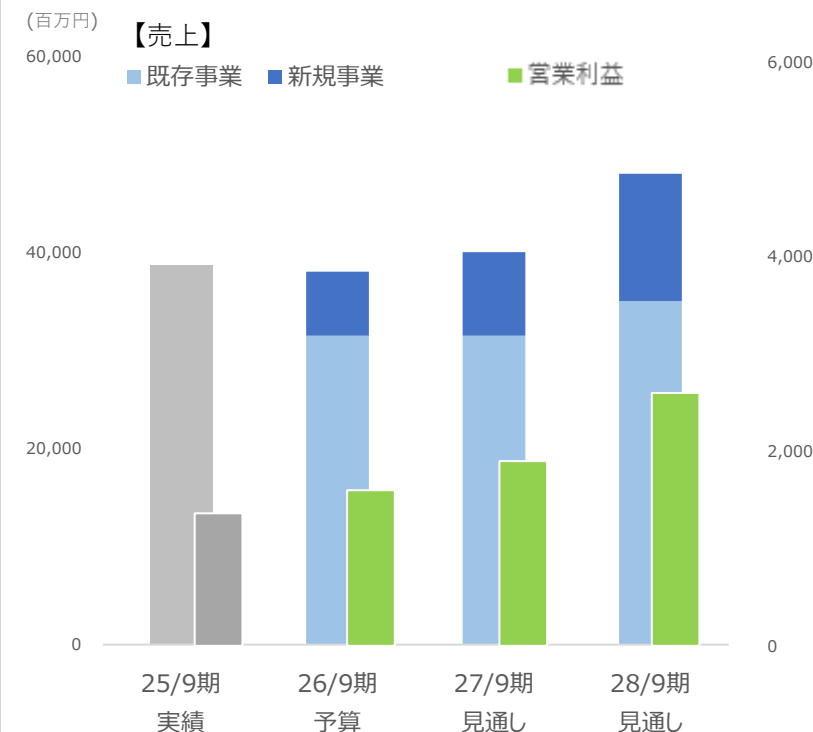
事業環境

- ・「テクノロジー」「健康」「環境」の共創による持続可能な社会
- ・研究開発支援の強化（予算確保、補助金等）
- ・計測ニーズ変化（ex.日本自動車規格改定・EV化）
- ・EV化による新たな市場の創出（バッテリー等）



業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 国内外サプライヤーとの関係深化
- 日本・海外拠点連携によるグローバル展開の推進
- デジタルマーケティング・アプリケーション提案営業による拡販・効率化
- 産学連携の推進による事業開発
- 取扱商材・販路拡充（M&A、一部出資）

計画達成の鍵となるファクター

- 国内外サプライヤーの生産・供給再編 → 市場変化
- EV化の進展 → 新たな市場創出
- 国内バイオ産業の発展 → 市場拡大
- 米国の通商・関税政策の動向 → 利益への影響

ビジネス

既存

- 電材、フィルム、SAP、界面活性剤、放熱分野素材
- 科学機器 バイオ関連機器/試薬

新規

- LiB関連部材
- 新規機能性飼料
- 食品添加物

キャッシュアロケーション

キャッシュイン キャッシュアウト (24.9~28.9 累計)

- 財務規律を保ちつつ、
他人資本を活用

【財務規律（目安）】

自己資本比率：50%以上
D/Eレシオ：0.5倍未満

- 営業CFの黒字基調継続

資産売却・借入等
100億円～

営業CF
280億円

成長投資
200億～
300億円

株主還元
85億円～

- 4セグメントの成長分野に
ボルトオン型のM&Aを推進

事業投資

人的資本
投資

DX関連
投資

※次ページ参照

- 「配当性向30%以上」
「累進配当」

投資戦略

■ 成長分野でボルトオン型のM&Aを推進。具体的な攻め筋は以下の通り

成長投資 200億～ 300億円	事業投資	ファインケミカル	➤ 海外販路拡大 ➤ 商権獲得 ➤ 新規商材開発
		インダストリアル・ プロダクツ	➤ 自動車アフターマーケット（シンガポールEMAS社※1） ➤ 環境対応表皮関連投資
		サステナビリティ	➤ 洋上風力発電関連・海洋調査関連 （取扱商材・バリューチェーン） ➤ 木質バイオマス周辺事業
		ライフサイエンス	➤ ヘルスケア関連（取扱商材拡充） ➤ 販路拡大（九州ミタカ※2）
	人的資本投資	➤ 「人のSanyo」のための採用、教育、評価、配置等	
	DX関連投資	➤ 基幹システム（2024年10月稼働開始）	

※1:2025/9/9 当社HPにて開示([子会社の異動を伴う株式取得に関するお知らせ](#))

※2:2025/10/9 当社HPにて開示([孫会社の異動を伴う株式取得に関するお知らせ](#))

【投資戦略トピックス】EMAS社 全株式の取得について

インダストリアル・プロダクツ

(株式譲渡実行日：2025年10月1日)

■ 自動車アフターマーケットへの事業領域拡大を主眼とし、シンガポール法人EMAS社の全株式を取得

【名称】

- EMAS SUPPLIES & SERVICES PTE LTD

【概要】

- 自動車エアコン関連部品を販売するシンガポールの専門商社

【強み】

- 30 年超の業歴を有し、高い専門知識と広い仕入ネットワーク
- 中東および東南アジア中心に世界約50 か国以上に製品を供給

【狙い】

新車向け内装部材提供を主力としたモビリティ事業領域

自動車アフターマーケット市場へ事業を拡大し、
バリューチェーンの機能を多角化



三洋貿易

自動車業界との
強固な関係
グローバル
ネットワーク

EMAS社

高い専門知識と仕入
ネットワーク
中東・東南アジア
へのネットワーク

【投資戦略トピックス】KORBON社との事業提携および転換社債取得について※1

ライフサイエンス

※1 2025/10/30 当社HPにて開示([KORBON CO., LTD.との事業提携および転換社債取得に関するお知らせ](#))

- 韓国においてSWCNT※2の研究開発及び製造販売を行うKORBON社との事業提携(同社が発行する転換社債取得)。SWCNT事業の成長ドライバーへの育成とともに、中長期的な事業ポートフォリオ拡充を目指す

(転換社債の取得日：2025年10月30日)

※2:シングルウォールカーボンナノチューブ。車載用リチウムイオン電池（LiB）の導電助剤として急速に需要が拡大。二次電池、帯電防止、複合材料等への応用が期待される。

【名称】

- ・ KORBON CO., LTD.

【概要】

- ・ 本提携により、当社はSWCNTの日本企業向け独占販売権を獲得

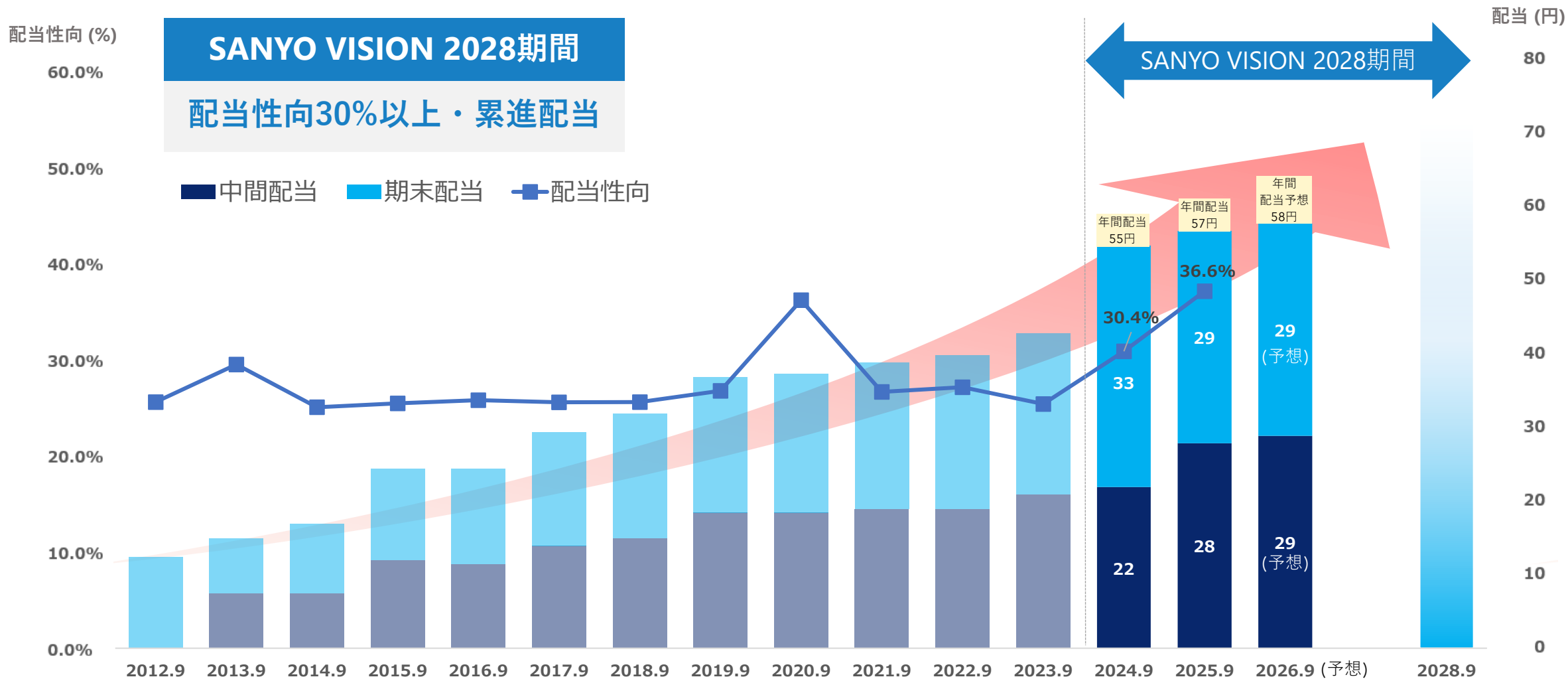


【背景・目的】

- ・ KORBON社の独自技術と当社のグローバルな販売ネットワークを融合し、同素材の販売展開を加速
- ・ KORBON社との協業を通じて、市場導入・技術支援・顧客開拓を一体的に推進
- ・ SWCNT事業を新たな成長ドライバーとして育成するとともに、中長期的な事業ポートフォリオの拡充を目指す

株主還元

- 継続的な増配・安定配当を行う基本方針をもとに、上場以来**13年連続安定配当継続中**
- 株価水準、成長投資への資金需要等を勘案しつつ、自社株買いも機動的に検討



Quest for Next

Appendix

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期4Q (2025.9末)	負債の部	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期4Q (2025.9末)
現金・預金	8,007	11,896	支払手形・買掛金	12,573	12,544
受取手形・売掛金等	26,694	26,409	短期借入金	4,458	2,960
棚卸資産	25,180	26,387	その他流動負債	8,567	12,600
その他流動資産	3,225	5,221	長期借入金	50	100
有形固定資産	3,160	3,464	その他固定負債	1,931	1,968
その他固定資産	9,123	8,116	純資産	47,809	51,321
資産合計	75,390	81,496	負債純資産合計	75,390	81,496

【ポイント】

- 売上増加に伴い、所要運転資金が増加

	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期4Q (2025.9末)
有利子負債比率	9.4%	6.0%
自己資本比率	63.3%	62.9%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1: リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

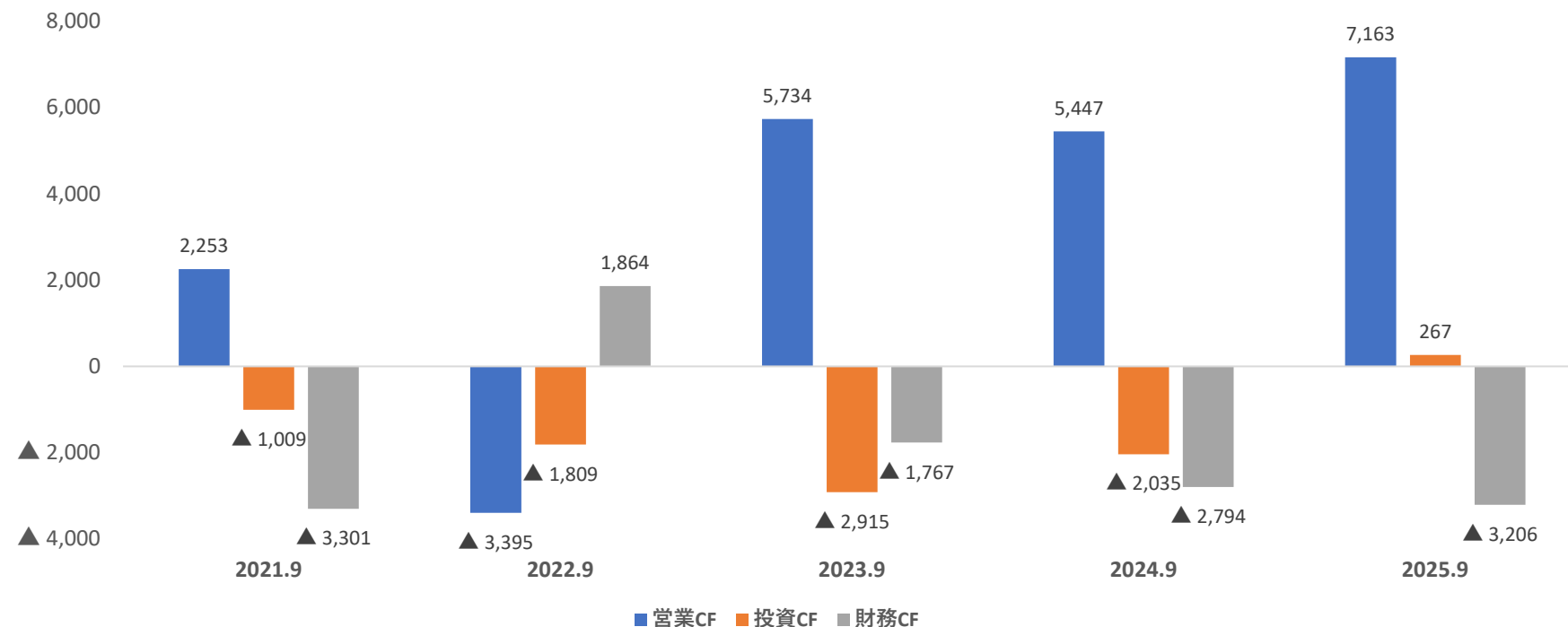
連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字継続

投資CF：投資有価証券の売却や定期預金の払戻による収入

財務CF：配当金の支払や短期借入金の返済

(単位：百万円)



	2021.9	2022.9	2023.9	2024.9	2025.9
営業CF+投資CF+財務CF	▲2,057	▲3,340	1,052	618	4,224
現金及び現金同等物の残高	8,663	5,718	6,900	7,367	11,726

お知らせ

- 「資本コストや株価を意識した経営」を当社HP上に開示させていただきました。
(11/17 11:00開示)

公式SNS
はじめました



<三洋貿易公式 Instagram>



QRコードを読み取って
フォローをお願いします。

<三洋貿易公式 X>



QRコードを読み取って
フォローをお願いします。

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役兼執行役員 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。